



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤賢三
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団
 環境技術部 環境活動推進チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

第4回印旛沼流域フォーラム 開催

エンジョイ INBA 小野 研二

「第4回印旛沼流域フォーラム」(主催:環境パートナーシップちば、場所:志津コミュニティセンター、日時:2月7日13:30~16:30、参加費500円)に参加した。

総勢40名ほど、満席であった。印旛沼の環境について、今回は農業に主眼を置いた話し合いが行われた。

小倉久子氏(千葉県環境研究センター)の講演「近年の印旛沼水質状況について」では、平成19年度はCODが悪化(11mg/L)し、とうとうワースト1になったこと。原因は、天候(暑かった)の影響とのこと。

林薫氏(県土整備部河川環境課)の「行政の取り組みから」では、水質に関しては、硝酸態窒素が上昇している。10月~3月が高い。また、雨が降れば(COD低下するのに対し)高くなる。鹿島川・高崎川中流部が増加傾向。汚濁点が特定できない面源負荷(車の排ガス等)の影響もあるとのこと。

林薫氏による県の活動状況の説明の後、高橋修氏(水土里ネット)から循環かんがい施設の整備、埴生浄化施設の設置・維持管理についての説明があった。ポンプを使って印旛沼の水を上流田に上げ、浸透した水が低地排水路へ流れる。この浄化された水を再度上流田へ流すことにより水質負荷の軽減を図るとのこと。

宮部恵子氏(耕さない田んぼの会)は、「不耕起移植栽培と冬期湛水で米づくり」がテーマ。不耕起移植栽培は、あらかじめ苗づくりから始め、耕すことなく、固い土に穴を開け、成苗を植える農法である。収量は慣行農法と変わらないと言う。これに、冬期湛水を組み合わせたやり方だ。コシヒカリを使い、青菅、小竹



地区で活動中。

美島康男氏(印旛野菜いかだの会)は、二枚貝(池蝶貝)と空芯菜との組み合わせで水質浄化を図っている。今後、パイオトイレ設置や周辺の関係者と協力して周辺地区の整備を行っていくとのこと。

次に、車座トークということで、堀田和弘氏(増田学園常務理事)の進行の下、「ワースト1返上は地域の力で!」とのテーマで農業関係者らの意見・感想が話された。

三門増雄氏(みためし行動冬期湛水の水田所有者)は、みためし活動を行って4年目となる。環境面から肥料の使い方に気をつけている。肥料を多量に使っているのは、一般に畑なので、水田の肥料は元々回数も量も少ないが、田植えのときに元肥と追肥を根元に同時に施して、使用量の低減を図っているとのこと。

林重孝氏(林農園)は、H18.12から有機農業を行っている。JAとの取り引きはなく、個別販売(85件)やレストランへ卸しているとのこと。有機農業への関心の高まりか、研修生が5名いるとのこと。その他、太田勲氏(印旛沼広域環境研究会)、金親博榮氏(谷当グリーンクラブ)、山崎輝清氏(四街道メダカの会)の話があった。

今まであまり関心がなかった農業だが、農業関係者の生の声を聞くことができ、有意義であった。



東京ガス施設見学会

ちばし手づくり環境博覧会は、市民団体、企業、千葉市のパートナーシップのもと、6月の環境月間に開催し、2008年度は4年目開催となりました。博覧会は実行委員会で進めていきますが、そのメンバーの東京ガスさんから、今回の東京ガス施設見学会のご招待をいただき、環境パートナーシップが事務局となり、手づくり博覧会に参加された団体へ参加呼びかけをしました。当日は、千葉市内外から10団体と千葉市合わせて20名の参加で見学してきました。

主催者側から

東京ガス（株）千葉支店地域支援グループ 小原 直子

日ごろ、環境パートナーシップちばの皆様におかれましては、弊社の環境活動においてご理解をいただきまことにありがとうございます。またこの度は、環境パートナーシップちば様をはじめとした環境団体様や千葉市役所の環境に携わる皆様を対象に、施設見学会をご案内させていただきましたところ、大変多くの方々にご参加いただき、重ねて御礼申し上げます。

千住テクノステーション「暮・楽・創ハウス」では、家庭用燃料電池「エネファーム」などの研究展示のご見学や、水素ステーションでの燃料電池自動車の試乗体験していただきましたが、いずれも家庭における温暖化対策の切り札として、また、低炭素社会実現のためのキーテクノロジーとして期待されているものです。

ご見学当日は、活発なご意見やご質問を賜り、エネルギー利用効率の向上に資する機器・システムの普及拡大の必要性を実感した次第です。ガスの科学館「がすてなーに」は、『科学と暮らしの視点からエネルギーの？（はてな）を学び、！（なるほど）を実感』を展示コンセプトに「ガスってなあに？」という疑問を「ガスってそうなんだ」という発見に



楽しく学ぶ施設です。こちらの施設については、日ごろ環境学習に力を注ぐ環境団体の皆様が、自由にご見学できる施設でございますので、是非今後もご利用いただければと存じます。

最後に東京ガスグループでは「環境経営のトップランナー」として、「環境に優しい都市づくり」をめざし、お客様とともに省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に貢献していくとともに、お客様や社会から信頼される企業となるよう、取り組んでまいります。

参加者側から

環境パートナーシップちば 吉田 陸

東京ガス施設見学ツアーに20人の一人として参加した見学記を記した。平成21年2月19日（木）8:25分NTT千葉支店前を出発し10:10分東京ガス千住テクノステーションに到着した。会議室で施設の説明を受けた後、2班に分かれ見学した。ガス利用のモデルハウスともいべき3つのコンセプト「暮・楽・創ハウス」すなわち、五感が目覚める家、家族がつながる家、一歩先の暮らしを支えるエネルギー利用技術を現したハウスを見学した。

まさに理想の暮楽創(く・らく・り)である。次いで、LPGガス等から生成した水素ガスを車に補給する水素ステーションに行き水素ガス生成法の説明を受け、全員がトヨタ及びメルセデスベンツ両社の水

素燃料車へ交互にらせてもらいステーション外周を1周してもらった。ちなみに、車のナンバープレートは2台とも8341(やさしい)であり、環境への配慮を感じた。

正午前、次の見学所の豊洲「ガスの科学館」へ出発し13時過ぎ着き弁当をいただいた。昼食後に館内の、ガスにまつわる？が！になる7つのゾーンの2階と屋上を除いた場所をガイド嬢の案内で見学した。地下のガス管配管模型、発電法、都市ガスの製法等を目で確認することができるようになっていいる。クイズホールの問題は結構難問があり間違った解答を押しした人もあった。15:35分科学館を出発し16:20過ぎNTT千葉支店前に帰着した。

今回の見学で感じたことは、テレビ等メディアでガスの利用価値の進歩はある程度理解していたつもりであったが、環境に配慮したガスの生産、供給

法、利用法等は、見て体感じてびっくりの感であった。正に「百聞は一見に如（し）かず」であり、今回参加されなかった方々の見学をお勧めしたい。

千葉市公民館講座

千葉市環境調整課が、千葉市内の環境団体に広く出前用の環境プログラムを募ってリストにまとめ、市内の公民館で利用してもらえるような制度を作っていることをご存じでしょうか。環境パートナーシップちばで引き受けた講座について報告します。

「エコ！省エネクッキング」 「ソーラークッカー工作」

広田由紀江

私が担当させていただいたのは、2月21日、28日桜木公民館「エコ！省エネクッキング」と3月1日朝日ヶ丘公民館「ソーラークッカー工作」です。

桜木公民館では、大人を対象に「ロールキャベツ」子どもを対象に「ギョウザドッグ」を作りました。参加者の半分以上が小学校1、2年生という低学年でしたので、「楽しく作る」「おいしく食べる」ことを大切にしました。元気な子どもたちに翻弄される場所もありましたが、楽しく実施することができました。どう見ても不恰好な出来栄にもかかわらず、本人たちは大満足で「売っているのよりおいしい！」と大喜びで、私たちも満足でした。大人はとて“気持ちの参加”が感じられ、料理を通じたワークショップとなりました。私たちは、毎日料理をしています。同じ料理でも、料理のプロセスを少し変えることがエコにつながると気づいてもらう、そして毎日の積み重ねが光熱費という形で目に見え、地球温暖化を防止することにもつながります。そのやり方は、1つではありません。家事を行う人それ

ぞれの多様なやり方がある中で、「どのやり方が、どんなエコを生むか」と話合うことで、妥協ではなく互いを認めあうことにつながったことがとても良かったです。講座だけではなく、公民館サークルで、今度ぜひ省エネクッキングを行いたいという声もいただきました。

朝日ヶ丘公民館では、おひさま頼みの「ソーラークッカー」にも関わらずなんと雨天となってしまう、実験が出来なかったことが何とも残念でしたが、工作でできたソーラークッカーを使って、子どもたちが実験して「太陽ってすごい！」と感じてくれたらいいなあと思います。ソーラークッカー工作の良いところは、後に自分で実験が出来ることです。しかし、その場での感動に匹敵できるような達成感には至りませんでした。お天気が思い通りになるはずはないわけなので、しょうがないのですが、みんなでこんなに太陽を待ち望んだことはないと思います。太陽のめぐみは大きいです。

「風をかんじて紙飛行機を飛ばそう」

荒尾 繁志

平成21年3月7日（土） 前日の雨もやみ寒さも少し和らいだ朝、犢橋公民館に元気な子どもたちが集まってきた。小学校1年生から5年生までの仲の良い10人、そして、付き添いの母親が2、3人。

会場は昔懐かしい木の床で少し早く着いた彼らは早速、鬼ごっこなどを始める。人懐っこい子どもの笑顔がとても素晴らしい。

始めの30分は空気の話・風の話・植物の種が風に乗って飛ぶ話などをする。少しややこしい話だったが、仲間の子もたちが声を出してくれたので、座の雰囲気や和らぎ進めやすかった。

紙飛行機の製作は少しずつ進め、皆の手の進み具合を確認しながらやってみたが、ここでも仲の良い子どもたちに助けられた。これは講座に参加者を引き込むために役立てられそうである。

作った飛行機の種類は「ヤリ飛行機、ヘソ飛行機、トトロ」、作り終わって飛ばすときの調整方法を



話すと目の輝きが変わる。

最後にターゲットを決め、そこに入れるように飛ばせると、紙飛行機を選んだり調整したりして、ゲームを楽しんでいた。

分かち合いの時間に「たくさん作って友だちにも教えてください、更によく飛ぶような工夫を重ねてください」とお願いし、さよならをした。

小中台中学校で環境学習しました

テーマ：紙おむつと砂漠化

日時：平成20年1月28日

学校：千葉市立小中台中学校 2学年

小中台中学校の先生から「紙おむつと砂漠化」ということで出前講座をしてほしいということで、お引き受けしました。この話を当会で検討したところ、わかりやすい授業の流れを作ることが難しいのではという議論がありました。それは、紙おむつが吸水性プラスチックを使用しているため、焼却炉で燃やされた場合、かなり、CO₂の排出を行っていることとなります。一方、紙おむつの吸水性プラスチックに生分解性のプラスチックを使うことが今話題になっています。その、素材が納豆のネバネバ成分から作られる道が開かれているようです。納豆由来の吸水性プラスチックであれば、その保水性を利用した、植樹が可能になり、砂漠化が防止できる、という考えが成り立ちます。

授業の進行の前にあらかじめ、生徒さんにアンケートをとり、幼児のときに年間何枚使用したかのアンケートをとりました。講座の日は、アメリカで8つ子が誕生した日で、一年間に一人が使用するおむつの数はおよそ2,700枚とニュースで流れてい

ました。生徒の5名のアンケートでは、偶然かもしれませんが、2,737枚でした。ちなみに、おむつがとれるまでには6,843枚でした。

出前授業は、若月さんと、加藤が担当しました。自己紹介に始まり、

1) 砂漠化と地球温暖化の問題、

2) 砂漠化との現状、

3) 砂漠化の防止のための植樹に吸水性のものがなぜ役立つのか。

4) 紙おむつを各自に渡して、その構造を調べるとともに、実際に水を注いで、吸水量を測定する実験をしました。

結果は、2リットルと出ました。これは、一般に、一日に飲む水の量として知られているものに相当しています。終わってから、振り返りシートを配布して、記入してもらいました。

紙おむつの吸水実験と、その解剖が興味深く、吸水性物質が砂漠化を防ぐ可能性を信じたいという思いが伝わってきました。(文責：加藤)

完成しました！

千葉県平成20年度 NPO 及び事業者による環境学習地域教材事業

ちば環境学習 “水” ハンドブック ～印旛沼・三番瀬～

昨年の夏から、地域教材作成に向け、当会のメンバーに専門委員として、小川かほる氏（千葉県環境研究センター）、高野史郎氏（千葉県環境学習アドバイザー）に加わっていただき、編集作業をしました。

まず、環境活動をしている県内の団体へ向けて、「活動分野・環境学習をしていますか・水に関する環境学習をしていますか・プログラムはありますか等」アンケートをお送りしました。約100の団体からお返事が届きました。次に、印旛沼と三番瀬での水に関する環境学習プログラムについて、団体の学習の様子などや、活動に参加したりして、ヒヤリングをさせていただきました。

当会の教材を作る目的は、水に関する環境学習を行なう側と教える側の参考になるもの、環境学習を取り入れたいと探している人、既に学習活動をしている団体の参考になるものとししました。

編集委員10名は、まず、本ができるまでについて学習しました。紙質、面付け、校正記号、製本方法など、なるほどと思える内容でした。この学習会のおかげや、高野氏のアドバイスなどで、印刷へ回すときにスムーズに行きました。

編集内容は、項目ごとの担当を中心に進めてきました。ただ、千葉県の水の課題は編集委員でワークショップを行い、課題出ししました。約半年間の編集作業でしたが、30回近くも編集会議や打合せを行いました。このような進め方で作成しました教材ですが、内容など不完全な面もあると思います。

今後この教材を活用しながら、さらに役立つ教材として行きたいと思えます。是非ご活用ください！また、アンケートやヒヤリングなどへのご協力ありがとうございました。

※お問い合わせは、当団体へお寄せください。

★2月環境パートナーシップエコサロン★

「～ヒマラヤ・『ラダック 懐かしい未来』から私たちが学べること～」

日時：2月23日(月) 午後6時30分～8時30分

会場：千葉市市民活動センター 会議室

学生時代、北海道やネパール山村でのワークショップに参加し、中近東や南アジアを旅し、現在はNGO ジュレー・ラダックで活動されてる方に話題提供をお願いします。ご本人は、自然とともに生きるラダックの人々の暮らしに魅了され、05年ジュレー・ラダックのスタディーツアーに参加。07年ISEC(International Society for Ecology and Culture)のLearning from Ladakhのプロジェクトに参加し、3か月間ラダックでの暮らしの経験とラダック滞在の体験をもとに、地域コミュニティで協力し合って実践している、ラダックに住む人々の持続可能な生活ぶりについてお話いただきました。

《ラダックとは》

ラダックはインドのジャンムー・カシミール州の最北端部にあります。標高3000～7000mの砂漠の広がる山岳地域にあり、冬は氷点下20度にも下がり、夏には30度を超えるときもあります。雨量は年間80～100ミリ、面積は日本の約6分の1、人口は約23万人です。90%の人が大麦や野菜などを栽培する農業に従事しています。家畜は牛、ヤギや羊、農耕用にゾウ(ヤクと牛を掛け合わせた動物)が飼われています。

過酷な地理条件と気候条件にありながら、ラダックでは1000年以上もの間、チベット仏教に根づいた豊かで独自の文化をはぐくんできました。



《ラダックの位置》
(ジュレー・ラダック HP より)

《押し寄せる近代文化》

まず、「懐かしい未来 ラダックから学ぶこと」という映像を鑑賞しました。伝統文化にのっとりたラダックの美しく高度な暮らしを紹介しつつ、ここ20年で襲いかかった近代化・グローバル化の波により、先進諸国が抱えるさまざまな問題(環境破壊、プラスチックゴミ問題、農業の衰退など)が顕在化している様子が描かれた作品です。特にラダックの

中心都市、レーでの変化が著しいとのことでした。

《自然と調和した、持続可能なコミュニティ社会》

後半はラダック滞在中に撮った写真をスライドで見ながらのお話でした。レーからバスで5時間かかる村の農家にホームステイしました。雨量は少ないのですが、ヒマラヤからの氷河水が村中に張り巡らした水路で結ばれており、4か月しかない夏に農作業をするそうです。仕事は老若男女それぞれにふさわしいものが割り当てられ、近所の人全員で助け合いながら、周りの自然の資源を活かした暮らしをしています。

大麦栽培を中心とした人々のライフスタイルが紹介されました。畑を耕したり、脱穀するときにはゾウが力を発揮します。また、収穫時は麦穂を人の力で運搬し、脱穀した後、実とワラを分ける時には風を、さらに石臼でひくときは水車を利用するそうです。

人々は大麦を主食とし、家畜の乳でバターを作ります。排泄物は1年間発酵させて肥料とし、残飯や麦ワラは家畜の飼料とします。家畜のフンは乾燥させて調理の燃料とするそうです。電気はあまり普及しておらず、人の力のほかに動物、風、川などの持つエネルギーをうまく活用しています。このような暮らしの閉じたサイクルは自然のサイクルと見事に調和しており、持続可能な社会の一つのモデルといえるでしょう。

《さいごに》

休憩時間には、香り豊かなラダック特産のお茶と甘酸っぱい干しアズの実を賞味しました。実際にラダックで生活して、「自然との付き合い方」や「皆で作業する、人と人とのつながり方」の重要性を学んだそうです。最後に「ジュレー(こんにちは、ありがとう、さようならなどの意味)」とあいさつして終了となりました。(文責 広報部)

ESD フォーラム in ちば 開催しました

日時：3月8日（日）午後1:30～4:30まで、
会場：千葉市きぼーる

このフォーラムの開催のきっかけは、昨年の6月に、「ESDを学ぼう」というタイトルで、当会のエコサロンにおいて、重政子氏（ESD-J）にお話を伺ったことがきっかけの一つになっています。

ESDは「Education for Sustainable Development」の略で、「持続可能な開発のための教育」を意味しています。このESDを学び実践することの大切さは、千葉県環境学習基本方針の環境学習の課題の一つに取り上げられているものです。

しかし、ESDについては、知っている人も多いのですが、細部では各人各様のイメージを持っているのが現状です。今回のフォーラムでは、1) ESDをもっと知ること。2) 平成21年度からの環境省のこれからの持続可能な社会づくりに向けての環境教育の施策、方向性を伺うこと。3) 市民団体からのごく身近な活動事例などを伺うこと。4) 千葉を拠点としたESD活動を広げるにはどうすればいいのかなどを話し合うこと、が狙いです。

内容は、基調講演として、「ESDの概要と21年度の環境省の方針」について、環境省環境教育推進室係長 武藤 文氏、話題提供として、四街道での平和活動などについて、当会会員の高橋晴雄氏、地球環境パートナーシッププラザの取り組みについて、GEIC スタッフ 星野 智子氏にお話をいただきました。

ESDの概要と21年度の環境省の方針（要約）

今、地球は地球温暖化、生物多様性の危機、大気や水質等の汚染、ごみ問題、化学物質による汚染、それに戦争、貧困、人権などの問題を抱えています。持続できない社会に向かっていくように見えます。そうならないように、予防的に、環境教育が必要となるわけです。そのために、政府によるESDの推進は、環境の保全、経済の開発、社会の発展のバランスが必要となります。重点的な取り組みとして、あらゆる教育現場で、ESDの理解に努め、地域特性に応じた取り組みの推進、高等教育機関での取り組みの推進が必要です。この中で、H18-H20年度では、地域におけるESDの推進を進めています。全国14地域でモデル事業を展開しています。21年度の新規予算の持続可能な地域社会づくりの中でも、ESD実施登録団体制度、ESDコーディネータの育成のあり方検討調査・研修、ESD推進拠点立ち上げ支援など。地域との関連では、(仮)地域環境教育支援協議会の立ち上げなどは、地域・家庭の低炭素社会づくりの推進として期待されています。



武藤 文氏（環境教育推進室係長）

四街道での平和活動などについて（要約）

平和団体の活動は偏っている人がやっているのではという偏見がありますが、自分の身のまわり5ヘクタール内に、谷津田の上に4つの遺跡があり、サシバやホタルも500匹もいるのですが、それが20年後にどのようになったかについてお話しします。

四街道で市民団体が核兵器根絶集会をやったところ1000人以上も集まりました。平和、環境は生存、生きる、命の問題です。平和も環境も持続の問題、何が持続かということ、社会の持続なのです。生まれてから死ぬまでを社会と考えると、生誕、生存、生涯ということで、過去とのつながりが持続します。共生とは生きている人だけのつながりではありません。地形や景観がなくなると、故郷がなくなります。どんなマインドでやるかが大切。命のつながりがキーワードになります。

地球環境パートナーシッププラザの取り組みについて（要約）

地球環境パートナーシッププラザは持続可能な社会づくりを理解できる人材作り、地域づくり、地方のパートナーシップの連携などを行うとともに、パートナーシップカフェや関東つながり会議を開催しています。G20&G8サミットのときのNGOフォーラムをサポートしてきました。地球規模で起こっている問題に関して、人をつないできています。千葉におけるESDの開催に関して、平成6年、7年は千葉で行うことができたが、平成8年度は環境パートナーシップちばが開催することができて、良かったと思います。

車座トークでは、ESDの大切さが議論されましたが、内容がまだわかりにくいことが課題として残りました。ESDを知ること、継続することが大切ということで、6月の環境月間開催することに決まりました。

（文責：広報部）

団体活動紹介・・・活動に訪問しました！

NPO 法人八千代オイコス

<http://www.yachiyo-oikos.jp/hanawaindex.htm>

特定非営利活動法人（NPO 法人）八千代オイコスは千葉県八千代市の環境を守る活動をする法人です。

＜オイコス＞とはギリシャ語の「家」(oikos)という意味で、「環境」の語源です。

NPO 法人八千代オイコスは、住民の豊かな生活環境を守るため、住民・行政・地域企業・その他の自然環境保護団体等と連携を保ちながら、共にパートナーシップによるグラウンドワーク活動を主体として、生活環境の保全及び改善のための事業を行い、八千代市内の良好な自然環境維持に寄与することを目的として 2001 年 12 月に設立しました。前進は八千代ホテルフォーラムです。

主な活動は、

- ①よみがえれ花輪川プロジェクト
- ②川の学校開校
- ③八千代市内のホテル調査
- ④炭焼き
- ⑤花輪川フェスティバル
- ⑥会報誌「オイコスかわら版」



桑納川エコウォーキング（3月22日実施）
（印旛沼連携アダプトプログラムに参加しています）

- ⑦八千代市民活動サポートセンター祭り・エコメッセなどに出展参加
- ⑧エコマインド養成講座生インターン受け入れ。など。

訪問した、3月22日は雨が降りそうなお天気でしたが、八千代市内から約30人の参加者がありました。八千代緑ヶ丘駅に集合して、花輪川から桑納川までの約2kmを、ゴミ拾いをしながら、川、斜面林、田んぼなど生き物や草花をかんさつして、春を感じるエコウォーキングでした。

オイコスの活動拠点では、絞りたての牛乳をいただきながら、オイコスの活動紹介と交流をしました。

（広報部）

運営委員会報告

10月運営委員会

日時：20年10月27日(月)

場所：船橋市民活動センター

- 協議：①教材作成編集委員会と今後の作業工程
②印旛沼エコウォーキング
③10月エコサロン
④リーフレット、だよりタイトル板
⑤千葉市民活動センター活動紹介ポスター展示に参加 ほか

11月運営委員会

日時：20年11月27日(木)

場所：船橋市民活動センター

- 協議：①文化の日千葉県功労者表彰
②印旛沼わいわい会議終了
③第4回印旛沼流域フォーラム
④12月エコサロン
⑤ESDフォーラム ほか

12月運営委員会

日時：20年12月16日(月)

場所：千葉市民活動センター

- 協議：①環境学習コーディネーター事業
②エコプロダクツ2008（エコメッセ出展）
③東京ガスの会社見学ツアーについて
④エコマインド養成講座一般コース発表会
と及び交流会 ほか

1月運営委員会

日時：21年1月20日(火)

場所：船橋市民活動センター

- 協議：①第4回印旛沼流域フォーラム
②2月エコサロン
③だより65号
④会費について
⑤エコフェア(市原市)について ほか

2月運営委員会

日時：21年2月23日(月)

場所：千葉市民活動センター

- 協議：①千葉市公民館講座
②ESDフォーラム
③松戸市市民活動センター(パネル参加)

お知らせコーナー

平成21年度環境パートナーシップちば総会開催のご案内

日時：5月10日(日) 午前10:00～11:30 会場：千葉市文化センター会議室3

(千葉市中央区中央2-5-1)

第1部 総会

☆平成20年度事業・会計・会計監査報告 ☆平成20年度事業・会計・会計監査報告
☆平成21年度事業計画(案)・予算(案) ☆平成21年度役員改選・新役員紹介

第2部 交流会 (各団体報告：20分間)

※ 報告ご希望の団体(個人も可)事務局までお知らせください。(プロジェクター使用可能です)
※ 出欠は、4月30日までに同封のハガキにてお送りください。

報告会

環境パートナーシップちばは、千葉県環境政策課の事業として【ちば環境学習“水”ハンドブック～印旛沼・三番瀬～】の作成を委託されました。県内の環境保全活動団体のみなさまの協力をいただいで作成しました。印旛沼と三番瀬に焦点をあてましたが、地域の水に関する環境学習・環境保全活動に参考になると考えています。今後の皆様の活動に是非ご活用いただきたいと考え、報告会を開きます。

日時：3月28日(土) 午後1:30～4:30

会場：きぼーる 会議室4(15階)

(きぼーる：千葉市中央区中央4丁目5番1号)

主催：環境パートナーシップちば

参加費：無料

≪プログラム≫

★ 基調講演 「環境保全活動で、環境学習を！」
千葉県環境研究センター 小川 かほる 氏

★ 教材の紹介

★ 車座トーク 意見交換会

申込・問合せ：TEL&FAX 043-258-5437

E-Mail:kuwahatak@hotmail.com

だよりタイトル版ができました！

広報紙「だより」1号～64号までの、タイトル(見出しと筆記者)を掲載しました。創刊号は平成9年8月でした。当会のあゆみがみえてきます。会員の皆さまにお届けいたします。

リーフレットを作成しました！

当会の活動紹介をコンパクトにして、リーフレットを作成しました。会員の皆さまにお届けいたします。メインテーマは、
**心豊かに暮らせる
持続可能な社会の実現に向けて！**
ご利用の際は、事務局へお知らせください。お送りいたします。

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：http://kanpachiba.com/

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団

環境技術部 環境活動推進チーム気付

＜環境パートナーシップちば＞

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		